

約 12 万台の Chromebook を短期間で配備し GIGA スクール構想を促進する 大プロジェクトがスタート

神奈川県第 2 の人口規模を持つ川崎市には、2020 年 5 月 1 日時点で小学校 114 校、中学校 52 校をはじめ計 179 校の市立学校があり、児童生徒総数は約 11 万人、教職員数も約 7,300 人に達しています。川崎市教育委員会では、そのうち小学校・中学校に Google の Chromebook と Google Workspace for Education の導入を決定、2021 年度からの運用開始に向けていま着々と準備を進めています。1 人 1 台 整備をはじめとした 教育への ICT 活用の取り組みについて、川崎市教育委員会の担当者の方々に話を伺いました。



川崎市教育委員会
〒210-0004
川崎市川崎区宮本町 6 番地
<https://www.city.kawasaki.jp/880/>

東京湾に面した工業地帯から内陸の住宅地・丘陵地まで細長い市域を有する川崎市。人口は約 150 万で、神奈川県内では横浜市に次ぐ規模だ。川崎市教育委員会は小学校 114 校 / 中学校 52 校など計 179 校を所管し、児童生徒 10 万人以上、教職員は約 7,300 人に達する。「第 2 次川崎市教育振興基本計画かわさき教育プラン」では「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」という基本理念を掲げる。



Chromebook

約 117,000 台

01

進んでいなかった ICT 教育での 課題解決を目指すソリューション選定

川崎市内の市立学校各校では、これまでもパソコン教室にそれぞれ 40 台程度の Windows 端末を設置し、授業でも使用してきました。ただ、当時は思うような活用ができていなかったと、川崎市教育委員会事務局総合教育センター情報・視聴覚センター室長の栃木達也氏は話します。

「調べ学習をはじめ、各教科等の授業時間に ICT を活用したいという声はあったのですが、パソコン教室の使用割り当ての問題があり、教員が授業で使いたいときにいつでも使える状況ではありませんでした。台数・設置場所などの環境が整っていないことに加えて、使える時間が少ないことで先生たちのスキルも上がらず、ICT 活用の動きはそれほど進んでいなかったのが実情です」(栃木氏)

川崎市では 2019 年 12 月の文部科学省による GIGA スクール構想の発表を受け、現状の ICT 環境では GIGA スクール構想の実現に不十分であることを再認識したうえで、1 人 1 台環境の実現に向けた動きをすぐに開始しました。

同構想では 2023 年度までの 4 年間で段階的に端末導入を進めていくことになっていたため、川崎市でも検討を重ねる中、当初はまず小学校 5、6 年生と中学 1 年生、その後に中学 2、3 年生と段階的に整備していくことを計画したといいます。この方針に則り、2020 年 3 月の市議会では各校の校内無線 LAN 環境構築が可決し、一足早くネットワークの整備に着手しました。

ところがちょうどその頃から、新型コロナウイルスの感染が一気に拡大。この影響を受け、4 月 7 日に文科省が端末整備スケジュールの加速化を発表したことで、川崎市でも 5 月以降、1 人 1 台の早期整備へと舵を切り直します。

「コロナへの対応を考えれば、段階的整備では間に合いません。2020 年度中に 1 人 1 台環境を実現すべきだ」という話になり、市の各部局と調整を重ね、最終的には 6 月の市議会に上程して、年度内の 1 人 1 台端末導入が正式決定しました」と栃木氏は振り返ります。

そこで選ばれた端末が、Google の Chromebook です。もともと各校には台数が限られるとはいえ Windows 端末があり、今回の 1 人 1 台整備に際しても Windows 端末の継続採用は当然

考えられました。さらには iPad OS 端末の新規導入についても検討を行っていました。その結果、4 校ある特別支援学校においては、アプリケーションが豊富だという現場の教員たちの意見から iPad の導入が最適と判断されました。

一方、小中学校への 1 人 1 台整備に関しては、Google のソリューションの“シンプルさ”が導入決断の決め手になったと、川崎市教育委員会事務局 総合教育センター情報・視聴覚センター 指導主事の和田俊雄氏は指摘します。

「どの OS にも強みがあり、その意味ではどれを採用しても GIGA スクール構想に合致した ICT 教育を進められると考えました。ただ、その中でも Chromebook は機能とセキュリティの考え方がシンプルでしだし、Google Workspace for Education も使い方やアカウント管理がとてもシンプルでした。ICT ツールを使った教育にまだ慣れていない先生たちが今後新しい取り組みにトライしていくとき、そうしたシンプルな端末とツールの組み合わせによる Google のソリューションなら、気持ちのうえでも前向きに臨めるだろうと考えて導入を決めました」(和田氏)

特にアカウントに関しては、児童生徒と教職員を合わせて計 12 万近い膨大な数のアカウントを管理していく中で、クラウドをベースにシンプルにつながり合えるメリットを重視したと和田氏は振り返ります。

一方、川崎市教育委員会事務局総合教育センター情報・視聴覚センター担当課長の関口大紀氏も Chromebook 選定の背景として次のように話します。

「GIGA スクール構想が提唱するクラウドと校内無線 LAN 活用のコンセプトを念頭に置くと、場所にとらわれず学校内のどこにいてもつながり、やりたいことができる環境を実現することが必須です。そのためには携帯電話のような感覚でどこにでも持ち運ぶことができ、動作が軽快で使い方も簡単な Chromebook が最適だと判断しました」(関口氏)

川崎市教育委員会
事務局
総合教育センター
情報・視聴覚センター



室長
栃木 達也 氏



同指導主事
和田 俊雄 氏



同担当課長
関口 大紀 氏



同指導主事
新田 瑞江 氏

02

ICT 経験の少ない教育の現場に基準を提示し「つながる」ステップの実現を描く

Chromebook は 9 月に発注を始め、2020 年度内に全台導入、そして新年度に本番の運用を開始するというのが同市の進めている計画です。合計 12 万台近くを短期間で配布するという大規模プロジェクトであるうえ、アカウントの用意だけでも大変な作業となり、Google とも連携しながらアカウント設定作業を行っている状況だといいます。

同時に、これから続々整備される Chromebook の管理面でも課題を抱えていると、関口氏は話します。

「川崎市には児童生徒数が 1,000 人を超える学校がいくつもあり、各教室で子どもたちが端末をきちんと管理するだけでも大変なこと。ここまで大量の整備は行ったことがなく、試行錯誤しながら進めていくしかありません。そこで、端末を保管するキャビネットの設置も急ピッチで進めているところです」(関口氏)

活用方法の研修だけでなく、端末の整備についても Google からのサポートが得られ、教育委員会、納入業者の 3 者で協力しながら

ら進めているといえます。

今後について、「1人1台の環境で Google のソリューションが力を発揮してくれることを期待しています。ただ、先生たちには ICT を十分に活用する授業を展開した経験がありません。そこで、Google Workspace for Education の使い方や授業の中でのさまざまな活用方法を現場の先生たちにどう伝えていくかを、教育委員会としての課題と捉えています」と、川崎市教育委員会事務局総合教育センター情報・視聴覚センター指導主事の新田瑞江氏は語ります。

まずは ICT を活用する授業のイメージを醸成してもらうために、リーフレットを作成して配布。さらには使い方や活用方法をそれぞれの学校で学べるように動画を作成し、配信も行いました。

そして、GIGA スクール構想を現場で推進していくリーダー的な立場を担う教員を各校から 1 人ずつ選出してもらい、12 月以降、その教員たちに講習を行う計画も立てています。

「Google Workspace for Education には多彩な機能が用意されていますが、どの機能をどのように、どこまで使い、状況に応じてどういった制限をかけるのか。各教科等での指導方法や校務での使い方、情報モラルの考え方など、実際の現場で先生たちが迷わないように基準をマニュアル化し、教育委員会が示していくことも重要だと考えています」と新田氏は話します。

同市の ICT 活用の道筋においては、こういった初期指導をまずステップ 0 と考え、その後にステップ 1、2、3 と段階的な推進を

構想しています。運用が実質的にスタートする 2021 年度は、ステップ 0 と 1 の段階。インターネットに「つながる」ことで、校務も含めた教育活動の多様な場面でとにかく利用してみることを目指しています。

そしてその先に、他者やこれまで学習した各教科などの学習内容と「つながる」ことで授業改善を図るステップ 2、さらに主体的な端末活用により学習内容はもちろん日常生活とも「つながる」ことで、他者と協働して課題を解決するステップ 3 へと、「つながる」をキーワードとした全体像を描いています。

川崎市では GIGA スクール構想とは別に、今回のコロナ禍の影響による対応の一環として、5 月にオンライン指導のガイドライン提示とそれに基づく学校側対応のサポートを行ってきました。

「オンラインでの対応をしたことがない先生がほとんどですが、コロナ禍の影響で直接会う場面がつかれない中、子どもたちとなんとかしてつながろうという先生たちの熱意や学校の思いがこの取り組みを契機に見えてきましたし、それがこれからの GIGA スクール構想実現にもダイレクトにつながっていくと実感しています」と新田氏。「私たちも教育委員会として可能な支援をすべて提供し、先生たちと一緒に一歩ずつ歩んでいきたいと思っています」と和田氏も強調します。

川崎市が市を挙げて取り組む大規模プロジェクトの今後に注目したいところです。

川崎市教育委員会のページ
「川崎市における GIGA スクール構想」



Google for Education

いつでも、どこでも、予算に応じて使える教育テクノロジーソリューションです。

Google for Education の特徴

- ☒ 簡単操作
- ☒ 手ごろな価格
- ☒ 高い汎用性
- ☒ 高い効果

1

chromebook

教育向けに設計され、授業向けに開発された軽量で耐久性の高い共有可能なノートパソコン

2

Google Classroom

教師と児童生徒向けに構築された学習プラットフォーム

3

Google Workspace for Education

時間や場所を問わず学校全体で共同利用できるクラウド型教育プラットフォーム

4

Chrome Education Upgrade

1つの端末から同じドメインのすべての Chromebook を設定
シンプルなクラウド型管理コンソール

